○文化財論講座

諸　岡　道比古

⑴現在の研究テーマ

- ●ドイツ観念論思想における「宗教」論の研究

須　藤　弘　敏

⑴現在の研究テーマ

- ●東アジア仏教絵画史　●東北の美術　●文化政策

⑵著書・論文ほか

- ●展覧会評「特別展美麗院政期の絵画の印象」「奈良国立博物館だより」2008年１月号　奈良国立博物館2007年12月
- ●「ねぶたとねぶた」『日本語と英語で読む津軽学入門』ハンナ・ジョイ・サワダ　北原かな子編　弘前大学出版会　pp.200～215　2008年２月
- ●「金と銀」『なごみ』2008年４月号　淡交社　pp.20～26，28～32，52～55　2008年３月

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- ●20年（2008）３月15日～23日
  合衆国，Cleveland Museum of Art, New York Public Library　ほか，
  鎌倉時代および高麗時代写経調査のため

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ●基盤研究（C）「鎌倉時代経絵の研究」課題研究番号 18250076（研究代表者　須藤弘敏）

⑺共同研究

- ●青森県下寺院文化財悉皆調査（20年度は南津軽郡大鰐町ほか）　青森県

杉　山　祐　子

⑴現在の研究テーマ

- ●アフリカの焼畑農耕民における在来知と社会的変化、●「動く身体」からみる「在来知」研究の可能性、●ジェンダー

⑵著書・論文ほか

- ●杉山祐子　「津軽地域の近代化」ハンナ・ジョイ・サワダ、北原かな子編『日本語と英語で読む津軽学入門』pp.70～87
- ●杉山祐子　2008共編著『津軽、近代化のダイナミズム』御茶の水書房
- ●杉山祐子　2008「アフリカの焼畑農耕民社会と近代化政策」作道信介編『近代化のフィールドワーク』東進堂

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ●基盤研究（B）「マイクロサッカードとしての在来知に関する人類学的研究」研究代表者

⑺共同研究

- ●東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「人類社会の進化史的基盤研究（1）」

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

- ●「マイクロサッカードとしての在来知」研究会　文化財論講座主催スペシャルレクチャー

宮　坂　　　朋

⑴現在の研究テーマ

- ●ローマ帝政末期、●カタコンベ壁画

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- ●2008年３月　ローマ出張（資料収集）
- ●2008年９月　ローマ出張（資料収集）
- ●2008年12月　シチリア・リビア出張（資料収集）
- ●2008年12月16日　特別講演‘Sulla pittura funerale dell’ipogeo TJ04 a Tiro, Libano’（パレルモ大学文学部）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ●基盤研究（C）課題番号 19520087「ヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画に関する包括的研究」（研究代表）
- ●基盤研究（A）研究代表者：泉拓良 課題番号 20251007「フェニキア・カルタゴ考古学からみた古代の東地中海」

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●文化財論講座スペシャルレクチャー主催

関　根　達　人

⑴現在の研究テーマ

●北方史、近世墓、亀ヶ岡文化

⑵著書・論文ほか

●単著『あおもり歴史モノ語り』無明舎出版　2008年８月１日。

●単著「広域編年の事例②亀ヶ岡式土器」『縄文時代の考古学』２（歴史のものさし）240～256頁　同成社　2008年２月10日。

●単著「平泉文化と北方交易２　―擦文期の銅鋺をめぐって―」『平泉文化研究』８　33～49頁　岩手県教育委員会　2008年３月31日。

●単著「北のガラス玉の道」『考古学ジャーナル』579号　12～15頁　ニューサイエンス社　2008年11月30日。

●単著「本州アイヌとその暮らし」・「こぎんざし」『日本語と英語で読む津軽学入門』42～57，166～177頁　弘前大学出版会　2008年２月29日。

●共著「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総覧　縄文土器』682～693頁　アム・プロモーション　2008年６月30日。

●共著「カラフトアイヌ供養・顕彰碑と嘉永六年クシュンコタン占拠事件」『弘前大学國史研究』124　１～22頁　弘前大学國史研究会　2008年３月30日。

⑶研究発表・講演

●「北海道松前町旧福山城下における近世墓標調査とカラフトアイヌ供養・顕彰碑について」日本考古学協会第74回総会研究発表　東海大学　2008年５月25日。

●「あおもり歴史モノ語り」講演　朝日新聞青森総局主催　弘前大学　2008年４月12日。

●「石造物にみる津軽の飢饉」第17回日本ナイル・エチオピア学会公開シンポジウム　弘前大学　2008年４月19日。

●「青森県考古学の諸問題」平成20年度青森県考古学会記念講演　三内丸山遺跡縄文時遊館　2008年６月14日。

●「本州アイヌの狩猟と漁撈」第６回考古学と中世史シンポジウム（動物と中世社会）帝京大学山梨文化財研究所　2008年７月５日。

●「松前光善寺のカラフトアイヌ供養碑からみた国家と民族」松前町文化財講演会　於北海道松前町民総合センター　2008年８月23日。

●「平泉文化と北方交易２―擦文期の銅鋺をめぐって―」第８回平泉文化フォーラム　奥州市文化会館　2008年２月２日。

⑷学外集中講義

●放送大学青森学習センター「考古学からみた中世史・近世史」（面接授業）　2008年６月７日～８日。

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●ロシア連邦サハリン州（陶磁器等の日本製品の所在調査）　2008年９月20～26日。

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●基盤研究（B）「近世墓と人口史料による社会構造と人口変動に関する基礎的研究」（研究代表者）

●弘前大学機関研究「亀ヶ岡文化研究に基づく教育基盤の充実と地域文化の創成」（研究代表者）

⑺共同研究

●平泉文化研究機関整備事業に係る共同研究者（岩手県教育委員会）

山　田　厳　子

⑴現在の研究テーマ

●口承文化　●唱導文化と民俗　●女性の身体と出産をめぐる民俗

⑵著書・論文ほか

［論文］

●山田厳子「試される母―近代における異常出生譚の受容と展開―」『口承文芸研究』31号、2008年３月　150-156頁

●山田厳子「巫女と戦争―東北における危機のフォークロア」『国文学　解釈と鑑賞』73巻８号、2008年８月　147-155頁

［その他］

●山田厳子「世間話とうわさ」日本口承文芸学会編『ことばの世界　第３巻　はなす』2007年12月　三弥井書店　135-145頁

●山田厳子「水子供養」「山姥」「流れ灌頂」『日本女性史大辞典』吉川弘文館、2008年２月、25、693-694、532-533頁

●山田厳子「津軽におけるオシラサマ信仰の展開」ハンナ・ジョイ・サワダ、北原かな子編・訳『日本語と英語で読む　津軽学

入門』／Yamada Itsuko *THE EVOLUTION OF OSHIRASAMA FOLK BELIEFES IN THE TSUGARU REGION* Translated and Edited by Hannah Sawada J. and Kitamura kanako *An Introduction to TUGARU STUDIES in Japanese and English* 弘前大学出版会　2008年２月 188-199頁

●山田厳子「金ヶ沢鶏舞」第49回北海道・東北ブロック民俗芸能大会実行委員会編『第49回北海道・東北ブロック民俗芸能大会記録』2008年３月23-27頁

●山田厳子「語りとはなし」青森市史編集委員会編『新青森市史　別編３　民俗』2008年３月　512-513、553-587頁

●山田厳子「交通・交易」青森県史民俗部会編『青森県史叢書　岩木川流域の民俗』2008年３月　45-52頁

⑶研究発表・講演

［研究発表］

●山田厳子「戦争と巫女―英霊のホトケオロシをめぐって―」青森県民俗の会、於：古川市民センター平成20年６月21日

［講演］

●山田厳子「地獄絵と民俗」八戸市立博物館講演会　2008年10月21日

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●科学研究補助金　基盤研究（C）「第二次世界大戦下のオシラサマ信仰と民間巫者」（研究代表）

⑺共同研究

●「日本における民俗研究の形成と発展に関する基礎研究」人間文化研究機構国立歴史民俗博物館

●「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」人間文化研究機構連携研究

足　達　　薫

⑴現在の研究テーマ

●イタリア美術史

⑵著書・論文ほか

●足達薫「ジュリオ・カミッロの絵画論、その理論と射程範囲」、『人文社会論叢（人文科学篇）』第19号、pp.1-16、弘前大学人文学部編、2008年２月29日。

●石鍋真澄監修『ルネサンス美術館』小学館、2008年（執筆箇所：pp.300-1, 332-3, 464-485）

⑷学外集中講義

●岩手大学全学教育科目「『フランダースの犬』とはいったいなんだったのか」

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●2008年３月、９月にイタリア、ローマで資料収集。

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●萌芽研究（平成一九年～）「修辞学、詩学、俗語文学におけるマニエリスム的造形原理の実証的・文献学的研究」の研究代表者。

上　條　信　彦

⑴現在の研究テーマ

●東アジア先史時代における食料加工技術の研究

⑵著書・論文ほか

●「山東半島出土磨棒の使用痕分析と残存デンプン粒分析」『日本水稲農耕の起源地に関する総合的研究―山東半島先史農耕文化の日中共同研究―（科学研究費補助金基盤研究（A）報告書）』九州大学人文科学研究院考古学研究室、2008年３月、pp.60－73

●（共著）「出土石器とその他の遺物」『壱岐カラカミ遺跡Ⅰ』九州大学人文科学研究院考古学研究室、2008年３月、pp.84－92

⑶研究発表・講演

●「朝鮮半島先史時代の磨盤・磨棒における使用痕観察と残存デンプン粒分析の結果」、第13回石器使用痕研究会、愛知県埋蔵文化財センター、2008年３月29日

●「山東半島における磨盤・磨棒の使用痕および残存デンプン粒分析」、日本中国考古学会九州部会第42回例会、九州大学、2008年８月30日

●「山東半島先史時代遺跡における残存デンプン粒分析」、日本中国考古学会　2008年度大会、金沢大学、2008年11月23日

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●中華人民共和国山東省における磨盤・磨棒の使用痕分析・残存デンプン粒観察（2008年６月）

●大韓民国嶺南文化財研究院・啓明大学校における資料調査（2008年８月22～29日）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 2007年度日本科学協会笹川科学研究助成（～2008年３月）
- 平成20年度三内丸山遺跡特別研究【個人研究】（2008年４月～）

○ 思想文芸講座

村田俊一
⑴現在の研究テーマ
- Ｔ．Ｓ．エリオットの評論を含めた詩作品を英国の文学史の流れの中だけでなく、ヨーロッパ精神史を踏まえながら研究していくこと。

新田　茂
⑴現在の研究テーマ
- ハインリヒ・フォン・クライストの作品とその思想について
- ロマン派絵画と文学にみられる世界観について

植木久行
⑴現在の研究テーマ
- 中国古典詩の詩跡の研究。日本の俳諧歳時記所引漢籍の考察。

⑵著書・論文ほか
［論文］
- 「中国歴代の地理総志に見る詩跡の著録とその展開―安徽省宣城市区・池州市、および山東省済南市区を通して―」『中国詩文論叢』第26集、2007年12月　pp,117～154

［書評］
- 「芳村弘道『唐代の詩人と文献研究』」『中国文学報』（京都大学）第75冊、2008年４月　pp.210～236

［報告書］
- 科学研究費基盤Ｂ『詩跡（歌枕）研究による中国文学史論再構築―詩跡の概念・機能・形成に関する研究―』（研究代表者）2008年３月、全193頁。

［小論］
- 「中国の歳時記と四季別類題詩集」『俳句研究』（秋の号）2008年［第75巻第４号］角川SSコミュニケーションズ、pp.124～125

⑶研究発表・講演
- 「詩の時代―唐詩とその風景」
  明治大学公開講座（リバティ・アカデミー 2008前期）
  2008年５月22日

田中岩男
⑴現在の研究テーマ
- ゲーテ『ファウスト』研究

今井正浩
⑴現在の研究テーマ
- 西洋古典古代の医学と哲学思想との間の影響関係をめぐる思想文化史的研究
- 医学・医療に関する倫理思想史的研究
- アリストテレスを中心とした西洋古代の生物学理論についての哲学・思想史的研究

⑵著書・論文ほか
［論文］
- 今井正浩（単著）「自然・経験・ロゴス―経験科学としての医学とその成立背景をめぐる言語文化史的考察―」

弘前大学人文学部・言語文化研究プロジェクト　平成19年度共同研究論集
『言語とコミュニケーション―その文化と思想―』第Ⅰ巻［2008年３月刊］
pp.17～49.

［小論］

- 今井正浩（単著）「ヒッポクラテス医学と初期ギリシア哲学」
  内山勝利責任編集『哲学の歴史』第１巻［中央公論新社，2008年２月刊］
  pp.241～244.／pp.684～685.

［書評］

- 今井正浩（単著）「内山勝利・木原志乃・國方栄二・三浦要・丸橋裕訳、
  Ｇ.Ｓ.カーク・Ｊ.Ｅ.レイヴン・Ｍ.スコフィールド編著『ソクラテス以前の哲学者たち』
  日本科学史学会編『科学史研究』第46巻（No.244）［2007年冬号，2007年12月26日発行］pp.268～269.

⑶研究発表

［学会発表］

- 今井正浩（単著）「ギリシアの医学思想における汎生説（パンゲネシス）の系譜（Ⅱ）」日本科学史学会第55回年会・総会
  2008年５月24日～25日　電気通信大学
- 今井正浩（単著）「ギリシアの医学思想における発生の問題」
  日本西洋古典学会第59回大会
  2008年６月７日～８日　同志社大学

［記念講演］

- 今井正浩「身体の発見史」
  2008年７月23日　弘前大学人文学部

⑹科学研究費補助金

- 平成20年度科学研究費補助金・基盤研究（C）［研究代表者：今井正浩］
  「ギリシア人の人間観への医学思想の影響をめぐる思想文化史的研究」

⑺共同研究

- 第12回ギリシア哲学セミナー「プラトン『ゴルギアス』『プロタゴラス』」
  2008年９月13日～14日　千葉大学
- 弘前大学人文学部・平成20年度共同研究プロジェクト
  「言語とコミュニケーション―その文化と思想―」

李　　　梁

⑴現在の研究テーマ

- 『幾何原本』翻訳研究（漢訳西学書の研究）、近世東アジアの新知識体系の研究、詩跡、建築を中心とする文化景観の研究、陳独秀研究

⑵論文

［論文］

- 「韓国所蔵漢訳西学書に関する書誌学的考察（上）―『韓国所蔵中国漢籍総目』を手がかりに」『人文社会論叢（人文科学篇）』第19号，2008年３月、pp.17～29.
- 「韓国所蔵漢訳西学書に関する書誌学的考察（下）―『韓国所蔵中国漢籍総目』を手がかりに」『人文社会論叢（人文科学篇）』第20号，2008年９月 pp.67～83.

［書評］

- 「記憶によって綴られた鎮魂の書―『嵐を生きた中国知識人』を読む」、『東方』330号，2008年８月号、pp.26～30.

［学会レポート］

- 「東海西海、心同理同―徐光啓暨『幾何原本』翻訳四百周年国際研討会速記」、『東方』総326号、2008年４月号、２～７頁
  （同題の中国語拡大バージョンは（城地茂教授翻訳、筆者校正）、国際科学史與科学哲学聯合会科学史組中華民国委員会『科学史通訊』第三十一期訳載、中華民国九十七（2008）年五月、61～68頁。

［エッセイ］

- 「外国語の学習と母国語」「特集：多言語教育の現場から（2）」『21世紀教育センターニュース』、第13号、2008年９月、１頁。

⑶研究発表

［学会発表］

- 「コインブラから東アジアへ—近世東アジアにおける新知識体系をめぐって—」
  国際研究集会「東アジア近代における概念と知の再編成」
  2008年11月17日（月）〜20日（木）京都・国際日本文化研究センター

［講演］

- 「洋風建築と日本のモダニズム—前川国男と津軽弘前を中心にして—」
  中国ハルビン師範大学東方言語学院　2008年９月３日（日本語）
- 「従科因布拉到東亞—早期近代新知識的伝播及其体系的建構」
  中国ハルビン師範大学人文学院　2008年９月８日（中国語）

［コメンテーター］

- 研究集会「魯迅・周作人と二十年代の日本」弘前学院大学，2008年10月14日

⑸海外出張

- 2008年３月21日〜28日　中華民国（台北）文献資料調査と研究打ち合わせ
- 2008年８月31日〜９月12日　中華人民共和国（ハルビン、長春、牡丹江、北京）大学間国際文化学術交流事業
- 2008年９月16日〜10月２日　南欧（ポルトガル、スペイン、フランス）文献資料調査

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金基盤研究Ｃ（課題番号17520065）「東アジアにおける漢訳西学書の成立、伝播とその影響に関する思想史的研究」（平成20年度）

⑺共同研究

- 「近代東アジアにおける概念と知の再編成」（国際日本文化研究センター）
- 『幾何原本』の翻訳研究（東京大学）
- 「近代東アジア思想研究」（『米欧回覧実記』中国語翻訳グループ）
- 「陳独秀研究」（日本陳独秀研究会）

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

- ナショナリズム研究会

泉　谷　安　規

⑴現在の研究テーマ

- フランス文学における催眠術の影響について
- シュルレアリスム

木　村　純　二

⑴現在の研究テーマ

- 日本倫理思想史における情念論および方法論

⑵著書・論文ほか

［著書］

- 『折口信夫　いきどほる心』講談社、2008年５月、全278頁

［論文］

- 「隠遁と老い」日本倫理学会編『倫理学年報　第57集』2008年３月、pp.35〜48
- 「戦時期の折口学」弘前大学人文学部『人文社会論叢　人文科学篇　第20号』、2008年８月、p.19〜42

［その他］

- 「歌と学問と」『本　７月号』（通巻384号）講談社、2008年７月、p.19〜21

⑶研究発表・講演

- 「荻生徂徠における天」、国際学術研討会「天、自然と空間」
  2008年９月25日、国立台湾大学

⑷学外集中講義

- 放送大学青森学習センター面接授業「倫理学入門」
  2008年５月24日〜25日

●札幌市立清田高校・出張講義「日本人の愛の歴史」2008年11月11日

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●韓国、ソウル市内　韓日関係史学会
2008年３月７日～９日

●台湾、台湾大学　国際学術検研討会「天、自然と空間」
2008年９月23日～28日

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●科学研究費補助金　基盤研究（C）「日本倫理思想史における情念の総合的研究　～『源氏物語』を機軸として～」（研究代表者：木村純二）

⑺共同研究

●科学研究費補助金　基盤研究（B）「東アジアにおける文明の衝突と「天」の観念の変容」（研究代表者：井上厚史）の研究分担者

山　口　　　徹

⑴現在の研究テーマ

●大正期ロマン主義文学についての修辞学的研究

⑵著書・論文ほか

●「内田百閒「冥途」における〈隔たり distance〉」
弘前大学国語国文学会『弘前大学国語国文学』第29号、2008年３月、pp.64～79.

●「佐藤春夫「西班牙犬の家」の〈水源〉―ブランデス『十九世紀文学主潮史』」東京大学国語国文学会『國語と國文學』第1016号，2008年７月、pp.48～60

⑶研究発表・講演

●「内田百閒「冥途」における〈隔たり〉について」
弘前大学国語国文学会第48回研究発表大会，2007年12月［弘前大学］

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●平成20年度ユニベール財団研究助成「森鷗外小説作品に描かれた「老い」の分析と現代社会における教育的活用の研究」

横　地　徳　広

⑴現在の研究テーマ

●時間と共同性についての哲学・思想史的研究

○コミュニーケーション講座

木　村　宣　美

⑴現在の研究テーマ

●句構造の非対称性・線形化と構造的依存関係に関する理論的・実証的研究

⑵著書・論文ほか

●論文「日本語の右方転移文の構造と談話機能」『言語とコミュニケーション―その文化と思想』51-71頁　2008年３月

●報告「『教育者総覧（教育活動自己評価申告記録）』［弘前大学版ティーチング・ポートフォリオ］に基づく検証を踏まえた授業改善」『第57回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究収録』80-83頁　2008年３月

●報告「第57回東北・北海道地区大学一般教育研究会報告」『大学教育学会誌』第30巻第２号　177-179頁　2008年11月

⑶研究発表・講演

●弘前大学ドリーム講座『英語学への招待』青森県立五所川原高等学校　2007年12月

●弘前大学ドリーム講座『英語学とは何か』青森県立三本木高等学校　2008年11月

●報告「学生参加型のＦＤワークショップ：効果的な授業シラバスの作成」『第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会』（北海道大学）2008年９月

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

● 2008 POD Network/NCSPOD Network [The Professional and Organizational Development (POD) Network &

The National Council for Staff, Program and Organizational Development (NCSPOD) Conference [October 22-25, The Nugget Resort, Reno, Nevada, U.S.A.] に参加 (2008年10月21日―10月27日, アメリカ合衆国ネバダ州リノ)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成20年度弘前大学人文学部学部長裁量経費『言語とコミュニケーション―その文化と思想に関する調査・研究プロジェクト』(研究代表者)

山 本 秀 樹

(1)現在の研究テーマ

- 世界諸言語の言語類型地理論的研究

(2)著書・論文ほか

［論文］

- 呉靭、山本秀樹、乾秀行、杉井学、松野浩嗣「語順地図作成に必要なデータ及び語順地図に現れる語順分布」『一般言語学論叢』第10号: 31-49頁. 2007年12月
- 山本秀樹「関係節形成のタイプによる接近可能性の階層再考とオーストロネシア諸語における関係節形成の発達過程」Seijo English Monographs no.40. pp.439-458. 2008年02月
- 山本秀樹「現生人類単一起源説と言語系統論の関係」『言語とコミュニケーション―その文化と思想―』 1-15頁. 2008年03月

［書評］

- 「書評空間：松本克己著『世界言語の中の日本語』」『月刊言語』2008年5月号

(3)研究発表・講演

- 「言語地図を用いた類型論的研究について」東ユーラシア言語地理学に関する研究会 (於青山学院大学) 2007年12月23日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成18～21年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)「地理情報システムによる世界諸言語の言語類型地理論的研究」(研究代表者：山本秀樹、研究分担者：乾秀行、研究協力者：松本克己)
- 学部長裁量経費「言語とコミュニケーション―その文化と思想に関する調査・研究プロジェクト」(研究分担者)

田 中 一 隆

(1)現在の研究テーマ

- 観客論的視点から見たイギリス・ルネサンス演劇のマルティプル・プロット構造の研究

(2)著書・論文ほか

- 学術論文 「『リア王』と「自然」の概念―シェイクスピアの翻訳について」、『言語とコミュニケーション―その文化と思想』、pp.75-96、2008年3月

(3)研究発表・講演

- 研究発表 “Shakespeare in Translation,” テネシー大学マーティン校 (The University of Tennessee at Martin) 客員教授として、人文・美術学部英文科 (The Department of English, College of Humanities and Fine Arts) において発表、2008年9月18日、10月2日
- 講演 “Shakespeare and English-Language Education in Japan,” テネシー大学マーティン校客員教授として、国際学術・教育センター (The Center for International Education and Global Studies) において講演、2008年11月20日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- 海外出張 テネシー大学マーティン校客員教授、2008年8月7日～12月20日、アメリカ合衆国

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成20年度弘前大学人文学部長裁量経費、「言語とコミュニケーション―その文化と思想に関する調査研究プロジェクト」(研究分担者)

上 松 一

(1)現在の研究テーマ

- Second Language Acquisition
- Learner Autonomy

⑶研究発表・講演

- ‘Some interesting and useful exercises for learners of English’第58回教育研究青森県大会あおもり教育のつどい2008「外国語分科会」青森県立八戸工業高等学校　2008年11月1日
- 「日本の言語外交5」通訳　弘前大学　2008年1月26日

⑷学外集中講義

- 面接授業「初級英語会話」放送大学青森学習センター　2008年11月8、9日

⑺共同研究

- 第58回教育研究青森県大会あおもり教育のつどい2008「外国語分科会」研究協力者　青森県立八戸工業高等学校　2008年11月1日

小野寺　　進

⑴現在の研究テーマ

- チャールズ・ディケンズと公開朗読
- ヴィクトリア朝の擬似科学について
- イギリス文学と落語
- 物語理論（ナラトロジー）

渡　辺　麻里子

⑴現在の研究テーマ

- 中世説話文学
- 中世における天台談義書の研究
- 了翁と鉄眼版一切経
- 天神信仰と文芸

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 「天台僧尊舜における草木成仏説」、『東洋の思想と宗教』25号、pp.62-82、2008年3月
- 「『鷲林拾葉鈔』—天台僧尊舜の学問と文学—」、『中世文学の回廊』（勉誠出版）、pp.190-202、2008年3月
- 「北野天神縁起と中世・近世の文芸および芸能」、『歴史と古典　北野天神縁起を読む』（吉川弘文館）、pp.229-256、2008年11月

［その他］

- 「はじめに—説話集の魅力—」「宇治拾遺物語　内容紹介」「十訓抄　内容紹介」「解説」（日本の古典を読む15『宇治拾遺物語　十訓抄』、小学館）、pp.3-5、pp.12-13、pp.218-219、pp.308-317、2007年12月
- 「The World of Dangisho: Educating Monks in Medieval Japan」、『CSJR Newsletter』（Centre for Study of Japanese religions：ロンドン大学日本宗教センター）、pp.10-11、2008年1月

⑶研究発表・講演

- 講演「Educating Monks in Medieval Japan」、The Centre for Japanese Research（The University of British Columbia）、2008年1月
- 講演「The World of Dangisho（“lecture Books”）: Educating Monks in Medieval Japan」、Buddhist Studies Workshop Program in East Asian Studies（The Princeton University）、2008年9月

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- カナダ、The University of British Columbia（2008/1/16～20）
- アメリカ、The Princeton University（2008/9/22～28）

⑺共同研究

- 特定領域研究（H17～H21）「宋元明における仏教道教交渉と日本宗教・思想」（代表、小島毅）

楊　　天　曦

⑴現在の研究テーマ

- 小説の翻訳に関する問題。
- ポピュラー文化（映画論）。

⑵著書・論文ほか

●論文単著「ことばと遠近法」(2008.3 法政大学私小説研究会　科研費報告書『アジア文化との比較に見る日本の「私小説」―アジア諸言語、英語との翻訳比較を契機に―』に掲載)

⑶研究発表・講演

●発表「日本語文学の可能性」
(2007.11 弘前大学人文学部ナショナリズム研究会)

●講演「俗語表現の日本語訳への可能性―清代小説『何典』をめぐって」
(2008.11 弘前大学国語国文学会)

⑷学外集中講義

●教職一般研修講座　青森県総合学校教育センター(2008.7.24)。
講義名「異国文化に触れて」

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●中華人民共和国(長春・北京)に出張。(2008.9.1～2008.9.14)目的―討論会の出席および出版に関する打ち合わせ、資料収集。

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●平成20年度弘前大学人文学部長裁量経費、「ナショナリズム研究会」(研究分担者)

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●ナショナリズム研究会

ジャンソン・ミッシェル

⑷学外集中講義

●山形大学人文学部　平成20年８月４日から８月７日まで。

●秋田大学教育文化部　平成20年４月から12月まで。

○国際社会講座

足　立　　　孝

⑴現在の研究テーマ

●中世盛期スペイン・エブロ川流域における城塞集落の形態生成論的研究

⑵著書・論文ほか

●(共著)関哲行・立石博高・中塚次郎編『世界歴史大系　スペイン史』，1，山川出版社，2008年，198-247頁。

●Takashi ADACHI, Documents of Dispute Settlement in Eleventh-Century Aragón and Navarra: King's Tribunal and Compromise, *Imago Temporis. Medium Aevum*, I, Lleida, 2007, pp.71-85.

⑶研究発表・講演

●足立孝「遍在する「辺境」―スペインからみた中世ヨーロッパ―」第30回スペイン史学会大会「「レコンキスタ」を超えて：中世イベリア史の新展開」(駒澤大学，2008年10月26日)

●足立孝「９-11世紀ウルジェイ司教座聖堂教会文書群の生成論的検討―司教座文書からイエ文書へ，イエ文書から司教座文書へ―」西洋中世比較史料論研究会「９-11世紀の私文書」(九州大学，2008年９月20日)

⑸海外出張・研修

●スペインおよびフランス共和国：ウエスカ司教座文書館，サラゴーサ大学図書館，スペイン国立文書館，フランス国立図書館(科学研究費)　2008年２～３月

⑹科学研究費補助金

●代表：「中世盛期スペイン・エブロ川流域における城塞集落の形態生成論的研究」(文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B))

●分担：「西洋中世比較史料論研究」(代表：岡崎敦，日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B)(1))

松　井　　　太

⑴ 現在の研究テーマ

●中央アジア出土古代トルコ語・モンゴル語文献の解読研究

- モンゴル帝国支配下の中央アジアにおける税役制度，交通制度，文書行政システムの復元，住民組織の実態と社会的機能の解明，宗教教団の経済的・文化的活動の分析

⑵書・論文ほか

［著書（共著］

- 吉田順一・チメドドルジ（編），吉田順一・チメドドルジ・井上治・永井匠・舩田善之・チョイジ・オヨーンビリグ・ボインデルゲル・梅村坦・武内紹人・石濱裕美子・荒川慎太郎・宇野伸浩・磯貝健一・矢島洋一・松井太・武藤慎一（著）『ハラホト出土モンゴル文書の研究』雄山閣，2008. 3, 410p., +10 pls.

［論文］

- 松井太「ドゥア時代のウイグル語免税特許状とその周辺」弘前大学人文学部『人文社会論叢』人文科学篇 19, 2008. 2, pp.13-25.
- Dai MATSUI, A Mongolian Decree from the Chaghataid Khanate Discovered at Dunhuang. In: P. Zieme (ed.), Aspects of Research into Central Asian Buddhism: In Memoriam K gi Kudara, Turnhout (Belgium), Brepols, 2008, pp.159-178.
- Osman Fikri SERTKAYA / Dai MATSUI, On a "Silver" Document. In: P. Zieme (ed.), Aspects of Research into Central Asian Buddhism: In Memoriam K gi Kudara, Turnhout (Belgium), Brepols, 2008, pp.343-349.
- 松井太「東西チャガタイ系諸王家とウイグル人チベット仏教徒―敦煌新発現モンゴル語文書の再検討から―」『内陸アジア史研究』23, 内陸アジア史学会，2008. 3, pp.25-48.
- Dai MATSUI, Revising the Uigur Inscriptions of the Yulin Caves.『内陸アジア言語の研究』23, 2008. 7, pp.17-33.

［科研費報告］

- 松井太「安西楡林窟のウイグル語銘文再読」松田孝一（編）『内陸アジア諸言語資料の解読によるモンゴルの都市発展と交通に関する総合研究』平成17～19年度科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書（No. 17320113）2008. 3, pp.191-199.

［その他］

- 松井太（新刊紹介）「森安孝夫『シルクロードと唐帝国』」『史学雑誌』116-12, 2007.12, p. 91.
- 松井太（学会動向）「第38回国際アジア・北アフリカ研究会議　(ICANAS38)・中央アジア史関係」『東方学会報』93, 2007. 12, pp.15-18.

⑶ 研究発表・講演

［学会発表］

- 松井太「敦煌出土西夏語文献裏面のウイグル語占卜文書」2008年３月23日，第８回遼金西夏史研究会大会（東京外国語大学）
- 松井太「俄藏回鶻文『修士奴・藥師奴文書』與吐峪溝的『阿彌陀窟』」2008年10月20日，第３屆吐魯番學國際學術研討會（新疆吐魯番學研究院・新火州大酒店）

［招待講演］

- 松井太「文字文化からみた草原とオアシスの世界」2008年６月27日，第68回東洋文化講座（学習院大学東洋文化研究所）
- Dai MATSUI, Aspects of the Uigurs' Activities on the Silk Road in the 13th-14th Centuries. 2008年10月31日，Silkroad & Culture of Silla: The 2nd International Symposium on Silla Studies. (Dream Conference Center, 韓国・慶州)

⑸外出張・研修、そのほかの海外での活動

- 中華人民共和国：旅順博物館において中央アジア出土文書資料の調査（科学研究費）2006年８月25日～８月28日

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 代表「中央アジア出土古代ウイグル語税役制度関係文書の歴史学・文献学的研究」科研費・若手研究（B）

分担「旅順博物館所蔵非漢文資料の総合的研究」科研費・基盤研究（B）（代表：三谷真澄）

- 分担「中国新疆のウルムチ・トゥルファン両博物館所蔵非漢文古文献の研究」科研費・基盤研究（B）（代表：梅村坦）
- 分担「シルクロード東部地域における貿易と文化交流の諸相」科研費・基盤研究（A）（代表：森安孝夫）

フールト・フォルカー

⑴現在の研究テーマ

- 平和研究、平和運動、歴史教育、戦争責任論

⑵著書・論文ほか

［論文］

- Volker Fuhrt: Peace movements as emancipatorial experience - Anpo tôsô and Beiheiren in 1960s' Japan, in: Benjamin Ziemann (ed.): Peace Movements in Western Europe, Japan and the USA during the Cold War (Krieg

und Frieden. Beiträge zur Historischen Friedensforschung; 8), Essen (Klartext-Verlag) 2008年1月、77-91頁。（研究活動報告2007年版の訂正。発行は07年11月から08年1月に延期。）

- フォルカー・フールト「戦後日本の歴史政策の諸問題」近藤孝弘（編）『東アジアの歴史政策 —日中韓　対話と歴史認識』明石書店2008年8月、192-209頁。

⑺共同研究

- 東アジアにおける国際協調的歴史教育システムの構築に関する政治教学的研究」名古屋大学（プロジェクトリーダー）、学習院大学、早稲田大学、韓神大学校（韓国）、ローアン大学（米国）、華東師範大学（中国）

城　本　る　み

⑴現在の研究テーマ

- 中国および台湾の高齢者福祉に関する研究

⑶講演

- 弘前大学ドリーム講座『現代中国論への誘い』　青森県立五所川原高等学校　2007年12月

⑸海外出張

- 2008年10月26日～11月7日　台湾（台北市、新竹市）

⑹科学研究費補助金

- 基盤研究（C）（平成20～23年度）「台湾の高齢者福祉に関する研究」（研究代表者）

荷　見　守　義

⑴現在の研究テーマ

- 東アジア地域史・中国史・朝鮮王朝史

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 荷見守義「明朝・高麗往来文書の研究—『吏文』所収档案を手掛かりに（一）—」『池田雄一教授　古稀記念アジア史論叢』白東史学会、2008年3月、pp.291～311
- 荷見守義「北緯四〇度の歴史学—東アジア世界における北方日本—」『北方社会史の視座　歴史・文化・社会』第三巻、清文堂、2008年5月、pp.3～29

⑶研究発表・講演

［研究発表］

- 大阪市「明代東アジア海域の国際交流—江南・遼東・朝鮮（高麗）」　2008年2月3日　特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」シンポジウム（大阪市立大）
- 帯広市「被虜送還と明朝鎮守」2008年7月12日　科学研究費補助金基盤研究（A）（一般）「近代移行期の港市における奴隷・移住者・混血児—広域社会秩序と地域秩序—」研究会（帯広畜産大）
- 弘前市「中朝宗藩と遼東鎮守」2008年9月24日　弘前大ナショナリズム研究会（弘前大）

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- 9月2日～14日　東南・南アジア港市調査（バンコク・アユタヤ・ムンバイ・デュー）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成19～22年度・科学研究費補助金基盤研究（A）（一般）「近代移行期の港市における奴隷・移住者・混血児—広域社会秩序と地域秩序—」（代表：弘末雅士）（分担）

⑺共同研究

- 中央大学人文科学研究所共同研究チーム「档案の世界」平成16年度～20年度
- 中央大学人文科学研究所共同研究チーム「情報の歴史学」平成18年度～22年度

林　　　明

⑴現在の研究テーマ

- ガンディーの思想及び歴史的再評価、サルヴォダヤ運動、ガンディーの精神の継承

⑵著書・論文ほか

［著書］

- 『資料集　インド国民軍関係者聞き書き』（共著）、研文出版、2008年3月31日

［論文］
●「インドにおける日本山妙法寺：石谷上人・森田上人の思想・活動―藤井日達上人とガンディーの精神の継承―」『弘前大学人文学部人文社会論叢　人文科学篇』、第20号、2008年８月31日、１－12頁

⑶研究発表・講演
［学会発表］
●「ガンディーの妻カストゥルバのサティヤーグラハ」、第21回日本南アジア学会大会、東洋大学、2008年９月27日
●弘前大学ドリーム講座
「インドの魅力とガンディー」、青森北高等学校、2008年10月28日

⑷学外集中講義
●「国際関係と日本」、青森県立保健大学、2008年４～７月

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動
［海外出張］
●インド（経済・宗教・文化面等における現代インドの変貌の有り様の調査）、2008年８月19日～９月17日

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等
●弘前大学ナショナリズム研究会

長谷川　成　一

⑴現在の研究テーマ
●日本近世史の研究

⑵著書・論文ほか
●著書『北奥羽の大名と民衆』清文堂　2008年２月　pp.1～253
●監修・共編著『北方社会史の視座　歴史・文化・生活　第１巻』清文堂出版　2007年12月　pp.1～306
●監修・共著『北方社会史の視座　歴史・文化・生活　第２巻』清文堂出版　2008年２月　pp.1～410
●監修『北方社会史の視座　歴史・文化・生活　第３巻』清文堂出版　2008年６月　pp.1～393
●監修・共著『地域ネットワークと社会変容　創造される歴史像』岩田書院　2008年10月　pp.1～460
●共著『日本語と英語で読む津軽学入門＝An introduction to Tsugaru studies in Japanese and English』弘前大学出版会　2008年２月　pp.1～239

［論文］
●「18世紀前半の白神山地で働いた人々―最盛期尾太鉱山を事例として―」『白神研究』５号　2008年６月　pp.18～25
●「天和～正徳期〈1681-1715〉における尾太銅鉛山の経営動向」『人文社会論叢』第20号　2008年８月　pp.43～65

⑶研究発表・講演
●鰺ヶ沢町「江戸時代の白神山地における生業と自然」白神インストラクチャー講演会　2008年２月23日
●弘前市「山と飢饉」日本ナイル・エジプト学会　2008年４月19日
●京都市「18世紀における新興商人の活動の軌跡―津軽領・足羽次郎三郎の活躍と凋落―」国際日本文化研究センター　2008年８月22日
●弘前市「近世津軽の災害史―被害対策と教訓―」弘前市立中央公民館市民講座　2008年11月13日

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
●科学研究費補助金　基盤研究Ｃ「歴史資料による白神山地の景観と環境の変容に関する研究」（代表）（平成20年度）

⑺共同研究
●「18世紀日本の文化状況と国際環境」　国際日本文化研究センター

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等
●2008年度弘前大学国史研究会大会　　2008年９月６日

澤　田　真　一

⑴現在の研究テーマ
●「差異」と「共生」をキーワードとしたオセアニアの文学と文化の研究
●ポストコロニアル・アイデンティティ

⑵著書・論文ほか

［著書］

- 『ニュージーランドを知るための63章』（共著、青柳まちこ編、第45章「活躍するマオリ作家たち―イヒマエラ、グレイス、ダフ、ヒューム」担当、明石書店、2008年７月、pp.242～245」

［その他］

- 「もっと知りたい！ニュージーランド④ホエール・ライダー」、『英語教育』、大修館書店、2008年１月号、Vol.56 No.11, pp.1～５
- 「もっと知りたい！ニュージーランド⑤男と女」、『英語教育』、大修館書店、2008年２月号、Vol.56 No.12, pp.1～５
- 「もっと知りたい！ニュージーランド⑥共生のアイデンティティを求めて」、『英語教育』、大修館書店、2008年３月号、Vol.56 No.13, pp.1～５
- 「内なる自然に気づく旅　ファームステイ・イン・ニュージーランド」、『英語教育』、大修館書店、2008年８月号、Vol.57 No.5, pp.28～29

⑶研究発表・講演

［研究発表］

- 関西学院大学「マオリ・ルネッサンス―文学の立場から―」ニュージーランド学会第１回研究大会、2007年12月２日

［講演］

- 弘前市民参画センター「第３回ひとにやさしい社会推進セミナー　人と人が支え合うこと　浮くも沈むも２人しだい」2008年11月８日

⑷学外集中講義

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

［海外における研究発表］

- Japan / New Zealand International Symposium, The University of Waikato, ‘Tama’s Three Voices; Ihimaera’s Tangi Reconsidered’, 2008/8/23

フィリップス、ジョン・エドワード

⑴現在の研究テーマ

- アフリカ史

⑵著書・論文ほか

- (1) “Islamskie publikatsii v Nigerii: kolonialnaia epoha” *Razvitie Afriki: vozmozhnosti i prep'atstviia*. Moscow, 2008. P.129 (2008)
- (2) “Believe it or not, Mugabe still has supporters” *The Japan Times* July 28, 2008 http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/eo20080728a1.html
- (3) review of *Telling Stories, Making Histories: Women, Words, and Islam in Nineteenth-Century Hausaland and the Sokoto Caliphate (Social History of Africa)* by Mary Wren Bivins, in The American Historical Review (v.113, no.2, 2008 p.620)

⑶研究発表・講演

- presented “Fighting Japanese Pagans in Hitler’s War: World War II as seen in the Hausa Newspaper *Gaskiya ta fi Kwabo*” at Reevaluating Africa and World War II (workshop at Rutgers University Center for Historical Analysis), 27-29 March, 2008,

⑷学外集中講義

- 秋田大学教育文化学部―英語民謡
- メリーランド大学ミサワ基地校―アメリカの黒人史
- トロイ大学ヨンサン基地校「韓国」―イスラム原理主義

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- Fulbright Association 31st annual conference, “The Interconnected World” Beijing, People’s Republic of China, October 20-22, 2008「フルブライト同窓会31次国際大会」

柑　本　英　雄

⑴現在の研究テーマ

●北海地域諮問評議会（NSRAC：North Sea Regional Advisory Council）、メタガバナンス

⑵著書・論文ほか

［論文］

●柑本英雄「リージョンへの政治地理学的再接近：スケール概念による空間の混沌整理の試み」北東アジア学会『北東アジア地域研究』第14号、2008年10月１日、1-20頁。

⑶研究発表・講演

［講演］

●2008年６月13日、イギリス、北海地域委員会（NSC：North Sea Commission）Business Meeting、“Regions Influencing Mezzo-regions”。

⑷学外集中講義

●青森中央学院大学「国際関係法」、2007年12月25日～27日。

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●2008年６月２日～６月３日、EU 地域政策 ESPON 会議出席（スロベニア）、関連インタビュー調査・資料収集。

●2008年６月11日～６月13日、北海地域委員会（NSC：North Sea Commission）バルト海地域委員会（BSC：Baltic Sea Commission）合同年次総会出席（デンマーク）、関連インタビュー調査・資料収集。

●2008年10月26日～31日、北海地域諮問評議会（NSRAC：North Sea Regional Advisory Council）年次総会出席（イギリス）、関連インタビュー調査・資料収集。

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●平成18年度～平成20年度、基盤研究（C）「欧州サブリージョンのグランドデザインに関する比較研究―「領域的結束」具体化の分析」、研究代表者。

●平成18年度～平成20年度、基盤研究（B）海外学術、「EU サブリージョンと東アジア共同体：地域ガバナンス間の国際連携モデル構築」、研究分担者。

●平成19年度～20年度、基盤研究（B）海外学術、「イタリアの国境地域と島嶼地域の“境界領域のメタモルフォーゼ”に関する比較地域研究」、研究分担者。

齋　藤　義　彦

⑴現在の研究テーマ

●現代ドイツ研究　　●近代社会論

⑵著書・論文ほか

●単著「メルケル政権下の内政と外交」『東北ドイツ文学研究』No.51　61～81頁　東北ドイツ文学会　2008年７月

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●「カントの平和論」 弘前大学ナショナリズム研究会　2008年７月３日

○情報行動講座

船　木　洋　一

⑴現在の研究テーマ

●マルコフ決定理論

清　水　　　明

⑴現在の研究テーマ

●デカルト哲学を中心とする近・現代の哲学

●心の哲学

(2)著書・論文ほか

［論文］

●「内的であるとはどのようなことか」『人文社会論叢』人文科学篇第19号　2008年２月29日　pp.1-12

［その他］

新聞連載書評エッセイ「あんな本こんな本」

●内山節著『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』　2007.12　陸奥新報
●リチャード・ドーキンス著『神は妄想である』　2008.01　陸奥新報
●デイヴィッド・プロッツ著『ノーベル賞受賞者の精子バンク』　2008.02　陸奥新報
●ダレン・オルドリッジ著『針の上で天使は何人踊れるか』　2008.03　陸奥新報
●R.プレストン著『ホット・ゾーン』　2008.04　陸奥新報
●プラトン著『クリトン』　2008.05　陸奥新報
●チップ・ウォルター著『この６つのおかげでヒトは進化した』　2008.06　陸奥新報
●山川偉也著『哲学者ディオゲネス』　2008.07　陸奥新報
●アラン・ワイズマン著『人類が消えた世界』　2008.08　陸奥新報
●カント著『道徳形而上学原論』　2008.09　陸奥新報
●ニーチェ著『悲劇の誕生』　2008.10　陸奥新報
●ル・クレジオ著『発熱』　2008.11　陸奥新報

奥　野　浩　子

(1)現在の研究テーマ

●複数の事象の表現方法（結果構文、複合動詞）
●二つの外国語学習と母国語の関係

(2)著書・論文ほか

●（翻訳）英語教育革新方案政策参考資料（大韓民国教育人的資源部）『人文社会論叢』（人文科学篇）第19号

作　道　信　介

(1)現在の研究テーマ

●近代化の社会心理学

(2)著書・論文ほか

●作道信介（編著）『近代化のフィールドワーク：断片化する世界で等身大に生きる』東信堂　2008年５月。
●山下祐介・作道信介・杉山祐子（編著）『津軽　近代化のダイナミズム：社会学・社会心理学・人類学からの接近』御茶の水書房　2008年２月。
●作道信介（編著）『難民キャンプ設置による社会変動への地元の対応に関する学際的研究』（基盤研究Ｂ研究成果報告書）2008年３月。
●作道信介「紛争へのアプローチ：社会心理学と心理学」（大渕憲一編『21世紀の社会心理学12　葛藤と紛争の社会心理学：対立を生きる人間のこころと行動』北大路書房　pp.132-143　2008年９月。

(3)研究発表・講演

●作道信介「山上のホトケオロシ」第10回フィールドワーク社会心理学研究会（３月26日－28日、於遠刈田温泉）・シンポジウム「語りと体現化のダイナミズム―カミサマ・手かざし・ホトケオロシ」
●作道信介「クリティークへのこたえ」第10回フィールドワーク社会心理学研究会（３月26日－28日、於遠刈田温泉）・シンポジウム「Cross Fire for the Future」
●作道信介　「社会変動と治療文化：ケニア北西部トゥルカナ・カクマ周辺の医療資源の変化1993-2007から」日本アフリカ学会第45回学術大会（５月24日・25日、於龍谷大学）
● Shinsuke Sakumichi “Changes in the Health-care-system around Kakuma area in North- western Kenya” Seminar on the Changes among the East African Pastoral Societies held on June 22, 2008 at Kyoto University
●赤坂憲雄・作道信介・山下祐介　「鼎談　津軽、近代化のダイナミズム」第４回津軽学公開講座「ジャワメク磁場『津軽』その深層」（10月13日、於人文学部３階講義室）
●工藤恵、木立るり子、米内山千賀子、作道信介「脳卒中を発症した高齢者への看護：回復期リハビリテーション病棟で看護師が心がけていること」　日本老年看護学会第13回学術集会（11月８－９日、於石川県立音楽堂）

●作道信介　「出来事としてのホトケオロシ：ケイコの召還をめぐる混乱から」日本質的心理学会第５回大会・企画「ナラティブ・アプローチの向こう側：質的研究の豊穣化に向けて」（11月29日・30日、於筑波大学）
●作道信介「でっこの会だより」（４月１日～11月18日）朝日新聞青森県版　連載１～25

⑷学外集中講義
●岩手県立大学社会福祉学部専門基礎科目Ⅱ　平成19年度「文化人類学」３月29日－３日、および平成20年度「文化人類学」９月24日－27日

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動
●ケニア・英国出張：８月１日－９月３日（基盤研究Ａ「アフリカ牧畜社会におけるローカル・プラクティスの復権／活用による開発研究の新地平」による）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
●基盤研究Ｃ「地域を形成し、人を留め置く力」〈ホールド〉の実証研究―「津軽の人生」調査（代表・作道信介）

⑺共同研究
●基盤研究Ａ「アフリカ牧畜社会におけるローカル・プラクティスの復権／活用による開発研究の新地平」（代表・太田至）

内　海　　淳

⑴現在の研究テーマ
●文字と音韻の仕組み
●コンピュータ利用教育

⑶研究発表・講演
●「e-learning 利用の拡大とソフトウェアライセンス」2008 PC Conference,　2008年８月、慶応義塾大学

曽　我　　亨

⑴現在の研究テーマ
●東アフリカ牧畜社会における民族問題や難民問題、資源をめぐる競合などについて考えています。またオーストラリアの先住民研究との対比において、アフリカにおける先住民言説の誕生についても考え始めています。

⑵著書・論文ほか
●曽我亨2008「難民となった牧畜民―ガブラ・ミゴの生存戦術」作道信介編『難民キャンプ設置による社会変動への地元の対応に関する学際的研究（基盤研究Ｂ研究成果報告書）』pp.208-244
●曽我亨2008「アフリカの片田舎で近代について考える」作道信介編『近代化のフィールドワーク』東進堂、pp.18-35
●曽我亨2008「難民として、ゲリラとして生きた20世紀」福井勝義、竹沢尚一郎、宮脇幸生共編『（講座世界の先住民族）サハラ以南アフリカ』明石書店、pp.161-182

⑶研究発表・講演
●2008年３月25日「家畜がつくる人の社会：ウシとラクダ」国際シンポジウム公開講演会「ブタ・ウシと人間の文化誌」（於奥州市前沢ふれあいセンター）
●2008年４月19日　「津軽とエチオピア、飢餓の経験」第17回日本ナイル・エチオピア学会公開シンポジウム企画（於弘前大学）
●2008年５月１日「牧畜民として、ゲリラとして、難民として生きた1970年代」第42回文化人類学会研究大会（於京都大学）
●2008年12月６日「ラクダ牧畜民ガブラの生業文化と社会」東北大学東北アジア研究センター公開講演会（於東北大学片平さくらホール）

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動
●2008年８月９日～９月２日　オーストラリアにおいて先住民政策にかんするフィールド調査

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
●科学研究費補助金・基盤研究Ｃ（研究代表者）『東アフリカ牧畜社会における「稀少資源をめぐる競合」ドグマの人類学的再検討』
●科学研究費補助金・基盤研究Ａ（研究分担者）『アフリカ牧畜社会におけるローカル・プラクティスの復権／活用による開発研究の新地平』
●科学研究費補助金・基盤研究Ｂ（研究分担者）『「マイクロサッカードとしての在来知」に関する人類学的研究』
●科学研究費補助金・基盤研究Ａ（研究分担者）『「先住民」のアイデンティティーの交渉』

(7)共同研究

- 国立民族学博物館共同研究（松井健代表）『生業活動と生産構造の社会的布置の研究』
- 東京外国語大学ＡＡ研（河合香吏代表）『人類社会の進化史的基盤研究』

羽　渕　一　代

(1)現在の研究テーマ

- 親密性の変容
- 北ケニアの牧畜民のケータイ電話利用

(2)著書・論文ほか

- 羽渕一代、2008「ケータイと若者の恋愛・社会参加との奇妙な関係」『ケータイの裏側』コモンズ
- 羽渕一代、2008「恋愛と結婚の現代的様相」作道信介編『近代化のフィールドワーク』東信堂
- 羽渕一代編、2008『どこか【問題化】される若者たち』恒星社厚生閣

(3)研究発表・講演

- Keiko YAMAGUCHI and Ichiyo HABUCHI, Youth and Homelessness, in RC34 PROGRAM: Growing up in a Liquid World: Youth Questions and Public Debate in Barcelona, First ISA Forum of Sociology, September, 2008

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- 2008年８月、ケニア調査（平成19年度―平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金（若手Ｂ）「モバイルメディア急速普及過程が社会関係と社会秩序に及ぼす影響に関する社会学的研究」）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成19年度―平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金（若手Ｂ）「モバイルメディア急速普及過程が社会関係と社会秩序に及ぼす影響に関する社会学的研究」（研究代表者：羽渕一代）

大　橋　忠　宏

(1)現在の研究テーマ

- 地域間交通における運輸施設の効率的配置
- 交通施設整備や交通政策が地域経済に与える効果の計測方法の開発

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 大橋忠宏（代表）「弘前市公共交通将来計画調査研究」受託研究（弘前市）平成19年度.

石　黒　　　格

(1)現在の研究テーマ

- 地方の若者の就業と地域移動
- 地域移動した若者のパーソナル・ネットワーク

(2)著書・論文ほか

- 李永俊・石黒格　2008　「仕事・生活とこころの健康に関する調査報告書」弘前大学人文学部附属雇用政策研究センター
- 石黒格編著　2008　『Stataによる社会調査データの分析：入門から応用まで』　北大路書房
- 石黒格　2008　「計量調査で人を知る、社会を知る」（作道信介（編）『近代化のフィールドワーク』　東信堂　pp.191-201）
- 李永俊・石黒格　2008　『青森県で生きる若者たち』　弘前大学出版会

(3)研究発表・講演

- 石黒格　2008　「精神的、身体的健康の規定因としてのコントロール感と社会参加」　第49回日本社会心理学会大会ポスター発表

(7)共同研究

- 人文学部附属雇用政策研究センターにて李永俊・山口恵子とともに地方から都市に移動した若者の調査研究を開始

鈴　木　　　淳

(1)現在の研究テーマ

- 設備配置問題のモデル化と解法アルゴリズム
- 変化を考慮した生産システム計画問題のモデル化と解法

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 「多階層設備配置問題に対する分枝限定アルゴリズム」，日本経営工学会論文誌，第59巻，第１号，11-20頁（2008年４月）

⑶研究発表・講演

［研究発表］

- 「Efficient Algorithms for Solving Facility Layout Problem Using a New Neighborhood Generation Method Focusing on Adjacent Preference」，Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Conference 2007, Session W2, No.4, ID778（2007年12月）於・台湾高雄市国賓大飯店
- 「大規模な設備配置問題解法のための近傍探索順序を考慮したアルゴリズム」，日本経営工学会平成20年度春季大会予稿集，144-145頁（2008年５月）於・電気通信大学
- 「多階層設備配置問題解法のための階層間設備交換操作確率を考慮したアルゴリズム」，平成20年度日本設備管理学会春季研究発表大会論文集，A1.4，A16-19頁（2008年６月）於・青山学院大学
- 「スパースなネットワーク型フロー構造を持つ設備配置問題のための近傍探索手順を考慮したSA アルゴリズム」，平成20年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集，383-388頁（2008年８月）於・公立はこだて未来大学
- 「容量を考慮した設備再配置モデルの構築と進化的な解法」，日本経営工学会平成20年度秋季研究大会予稿集，128-129頁（2008年10月）於・大阪府立大学

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Conference 2007にて研究成果発表　(2007年12月)於・台湾高雄市

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金基盤研究（C）「設備配置問題解法のための進化的なアルゴリズムの研究」（研究代表者）（平成20年３月まで）
- 科学研究費補助金基盤研究（C）「多期にわたる変化を考慮した設備配置問題解法のための進化的なアルゴリズムの研究」（研究代表者）（平成20年４月から）

⑺共同研究

- 設備配置問題解法のための進化的なアルゴリズムの研究（首都大学東京・山本久志ほか）

増　山　　篤

⑴現在の研究テーマ

- 部分地区の空間的連坦性および均質性を保証する地区区分方法に関する研究
- 高齢者居住密度と周辺施設までの近接性の関係の分析
- 居住と施設アクセシビリティの相互依存関係を分析する方法に関する研究

⑵著書・論文ほか

- 増山 篤 (2008) 「高齢者居住と最寄り周辺施設までの距離との関係 - 都道府県レベル集計データを用いた統計的分析-」，都市計画報告集，7 (1)，1-8
- 増山 篤 (2008) 「ポイントの空間分布パターンを判別する分析方法間での分析結果の相互従属性―CSR 仮説下における最近隣距離法と方格法の比較―」，都市計画論文集，43 (2)，41- 49

○ビジネスマネジメント講座

四　宮　俊　之

⑴現在の研究テーマ

- 企業経営における提示、提案型での消費や需要の創出プロセスの経営史的研究
- 経営史学での新たな視座の構築に向けての研究
- りんごの消費や需要の創出をめぐる歴史文化的研究

⑵著書・論文ほか

- 四宮俊之「りんごの消費や需要に見る歴史文化性の差異について」『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第４号、2007年12月、21－38頁。

⑷学外集中講義

●「経営史」青森公立大学、2008年秋学期

保 田 宗 良

⑴現在の研究テーマ

●医療マーケティングの応用理論の構築

⑵著書・論文ほか

●「医薬品流通の視点による医療マーケティングの若干の考察」日本消費経済学会年報第29集、日本消費経済学会、３月、pp.81-87

●「医療マーケティングと医療消費者の顧客満足に関する新たな考察」人文社会論叢（社会科学篇）20号、８月、pp.121-128

⑶研究発表・講演

●医療マーケティングと医療消費者に関する若干の考察、日本消費経済学会全国大会、於　大阪商業大学、６月15日

●一般用医薬品流通研究の検討項目に関する考察、日本消費経済学会東日本大会、於　中央学院大学、９月27日

●公開講座：東北公益文科大学大学院「特別セミナー（企業経営）」10月21日、11月16日

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●クアラルンプール　　１月17日～21日

●台北　　３月21日～24日

●シンガポール　　７月31日～８月３日

●タモン　　９月12日～15日

●マニラ　　11月１日～３日

⑺共同研究

●「津軽こぎん刺し」ブランド展開プロジェクト委員会、弘前商工会議所
鍛冶町・鍛造刃物産業構築「津軽打刃物」プロジェクト委員会、弘前商工会議所

●「世界へ発信！津軽『うるおい、うるわし』事業プロジェクト委員会、弘前商工会議所

森　　樹 男

⑴現在の研究テーマ

●多国籍企業における海外子会社の研究

●北欧における産学官連携と地域経済活性化に関する研究

⑵著書・論文ほか

●森樹男「海外直接投資の歴史と企業の多国籍化」五味・安田編著、『国際経営論の基礎』2008年４月、文眞堂，pp.23-37。

●森樹男・小谷田文彦「中南地域における産学官連携による産業の高付加価値化に関する調査報告書」共著、2008年３月，地域共同研究センター。

⑶研究発表・講演

●森樹男「観光による地域振興」、あおもりツーリズム人づくり大学はやて（弘前大学・青森県主催）、2008年６月26日、於　弘前大学

⑷学外集中講義

●岩手大学人文社会科学部（北東北国立三大学連携講義）、「商業とまちづくり」「北東北における観光と地域振興」（2008年９月29日）

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●2007年12月12日～17日、カターニャ（イタリア）

●2008年２月14日～18日、上海（中国）

●2008年11月16日～27日、カールスタッド（スウェーデン）、セイナヨキ（フィンランド）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●平成20年度　学術国際振興基金（学術の国際交流推進事業）「産学官連携による地方都市経済再生の研究～北欧地方都市の事例を参考に～」、共同研究者　小谷田文彦

嶋　　恵　一

⑴現在の研究テーマ

- 設備投資の断続性と生産性への効果に関する実証研究。

⑶研究発表・講演

- "Lumpy capital adjustment and technical efficiency"、景気循環日付研究会・秋田コンファレンス（科研費代表：浅子和美、一橋大学）、2008年９月。

髙　島　克　史

⑴現在の研究テーマ

- ベンチャー企業の経営戦略と組織

岩　田　一　哲

⑴現在の研究テーマ

- コミットメントとモチベーションの関係の理論的研究
- 過労死・過労自殺者の心理的要因の探索

⑵著書・論文ほか

［その他］

- 「過労死・過労自殺の危険因子に関する分析」『経営学論集』第78集、2008年９月、156-157頁。

⑶研究発表・講演

- 「過労死・過労自殺へ導かれる要因とは何か？―関係者の手記の分析から―」弘前大学経済学会第33回大会（於：弘前大学）、2008年10月。

柴　田　英　樹

⑴現在の研究テーマ

- 環境会計、排出権取引に関する研究
- 粉飾決算、監査風土の研究

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 柴田英樹「環境報告ガイドラインの概要」企業会計Vol.60. NO.9、中央経済社、９月、pp.88-89
- 柴田英樹「排出権取引の会計処理に関する一考察」『弘前大学経済研究』2007年12月、第30号、pp.27-42頁
- 柴田英樹「動的内部統制論」人文社会論叢（社会科学篇）19号、11月、pp.1-17
- 柴田英樹「日本的監査風土の「いま」と今後」人文社会論叢（社会科学篇）20号、８月、pp.19-40

［学会レポート］

- 柴田英樹「日本監査研究学会「第30回東日本部会」報告」

［その他］

- 柴田英樹「「中央青山」以後激震する監査風土」**ZAITEN** 第52巻第７号、財界展望新社、７月、pp.20-29

⑶研究発表・講演

- 公開講座：サマーカレッジ「身の回りのことから環境問題を考えよう」、９月２日

⑺共同研究

- 知的資産に関わる会計情報の活用に関する実証研究（加藤）

加　藤　恵　吉

⑴現在の研究テーマ

- 企業価値評価、無形資産、国際税務。

⑵著書・論文ほか

- 『ベーシック税務会計Ⅱ―所得税法・消費税法―』創成社　2008年７月（共著）
- 『ベーシック税務会計Ⅰ―法人税法―』創成社　2008年10月（共著）

⑺共同研究
- ●租税属性とコーポレート・ガバナンスとの関係性（大沼・櫻田）
- ●知的資産に関わる会計情報の活用に関する実証研究（柴田）

中　村　文　彦

⑴現在の研究テーマ
- ●会計選択の国際化、退職給付の財務報告に関する研究

⑵著書、論文等

［論文］
- ●中村文彦「会計選択の国際化」會計、第174巻、第４号、2008年10月、63－77頁。

［その他、テキスト］
- ●中村文彦「固定資産」（税経セミナー 2008年２月臨時増刊号、所収）

金　藤　正　直

⑴現在の研究テーマ
- ●環境サプライチェーン・マネジメントを支援する会計情報システムに関する研究
- ●バイオマス政策・事業プロセスを対象にした総合評価モデルに関する研究
- ●情報セキュリティ・マネジメントを支援する会計モデルに関する研究

⑵著書・論文ほか

［論文］
- ●「日本におけるバイオマス政策・事業を対象にした評価モデルの構想」『人文社会論叢（社会科学篇）』第20号、2008年８月、１-18頁。

［研究・調査報告書］
- ●「アメリカにおけるSFAS第143号公表前後の影響分析」、日本会計研究学会スタディ・グループ『環境財務会計の国際的動向と基礎概念に関する研究：最終報告』2008年９月、113-119頁。
- ●「日本企業における資産除去債務処理に関する現状分析」、日本会計研究学会スタディ・グループ『環境財務会計の国際的動向と基礎概念に関する研究：最終報告』2008年９月、139-145頁。

［FD関連］
- ●「Faculty Developmentにおける授業設計シミュレーション：講義「環境科学論―地球温暖化を中心として」の設計」『21世紀教育フォーラム』第３号、2008年３月。

⑶研究発表・講演

［研究発表］
- ●「林間型バイオマス政策･事業評価モデルの実践適用可能性」第３回日本LCA学会研究発表会（於:名古屋大学）、2008年３月。
- ●「林間型バイオマス事業を対象にした政策形成過程の現状と将来」環境経済・政策学会2008年大会（於：大阪大学）、2008年９月。

［講演］
- ●「戦略的環境会計情報システムの構築方法」サステナビリティ経営研究会（㈱環境管理会計研究所主催）東京・大阪２講演、2008年３月。

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- ●文部科学省　科学研究費補助金　若手研究（スタートアップ）（2007年度～2008年度）。

⑺共同研究
- ●文部科学省『一般・産業廃棄物・バイオマスの複合処理・再資源化プロジェクト』2003年度－2008年度（2006年11月まで研究員、業務協力者（2008年３月まで））。
- ●日本会計研究学会スタディ・グループ「環境財務会計の国際的動向と基礎概念に関する研究」2007年－2008年。
- ●環境省　地球環境研究総合推進費『バイオマスを高度に利用する社会技術システム構築に関する研究』（2008年度～2010年度）。

○経済システム講座

中　澤　勝　三

⑴現在の研究テーマ

- 「海からの歴史」、翻訳ヤン・デニュセ『アントウエルペンのアフリカ交易』

⑵著書・論文ほか

- 書評　「宇野忠義『リンゴ農家の経営危機とリンゴ火傷病の検疫問題』弘前大学出版会、2007年刊」、東奥日報、2008年1月25日朝刊、掲載」

赤　城　国　臣

⑴現在の研究テーマ

- 戦後景気循環の研究

⑵著書・論文ほか

- 論説「米国経済混乱の影響も」（『陸奥新報』、2008.1.1）
- 論文「公共財の図形的理論：その算術的説明」『人文社会論叢　社会科学篇』第19号（弘前大学人文学部、2008.2）

鈴　木　和　雄

⑴現在の研究テーマ

- 資本蓄積論，労働過程論

⑵著書・論文ほか

- 鈴木和雄「労働移転論が提起するもの」『アソシエ21・ニューズレター』（アソシエ21）2008年7月号（第115号）、2008年7月10日、5-7頁。

⑶研究発表・講演

- 鈴木和雄「書評：岡本英男著『福祉国家の可能性』（東京大学出版会、2007年3月）」社会政策学会第105回秋季大会・書評分科会（於岩手大学）、2008年10月11日。
- 鈴木和雄「U.S.ラディカルズの剰余理論と労働過程論」東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター「政治経済学ワークショップ」公開セミナー：「労働論の可能性」（於東京大学）、2008年3月25日。
- 鈴木和雄「接客労働における三極関係―その構造と効果―」SGCIME夏季研究会（於東京八王子セミナーハウス）、2008年8月8日。

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

- 弘前大学経済学会第33回大会，2008年10月25日。

池　田　憲　隆

⑴現在の研究テーマ

- 近代日本における官営工業の実証的研究

⑵著書・論文ほか

- 「海軍省所管製鋼所案と陸海軍」、『人文社会論叢』（人文科学篇）第20号、2008年8月、13-28頁
- 「報告書」：科研費基盤研究（B）研究成果報告書（課題番号 16330066）研究代表者清水憲一『官営八幡製鐵所創立期の再検討』（本人執筆部分、「日清・日露戦間期における兵器用鋼材生産」、51-72頁、2008年3月

⑶研究発表・講演

- 「近代日本軍事工業史の課題と方法」、兵器産業・武器移転史フォーラム（第13回会合）および日本軍事工業史研究会との共催、2008年7月19日、於；東京大学

⑺共同研究

- 日本軍事工業史研究会

黄　　　孝　春

⑴ 現在の研究テーマ

- 中国における外資政策の変化と日系企業の対応

●リンゴ産業におけるピンレディーシステム（会員制）の実態

⑵著書・論文ほか

●第５章「中国企業の組織再編と持株会社」下谷政弘編著『東アジアの持株会社』ミネルヴァ書房、2008年５月

●「世界のリンゴ事情」連続３回『林檎商組日報』2008年３月14，15，18日

●「世界のリンゴ事情」連続３回『林檎商組日報』2008年11月19，21，26日

●「鈴木商店　金子直吉」月刊「ＡＢＣ」2008年９月号

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●2008年１月20日－27日青森県農水産物輸出促進協議会主催　青森産リンゴの中国輸出事情視察

●2008年11月23日－26日中国上海の大学で秋季入学の可能性について聞き取り調査

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●平成20年度農業経営研究等支援事業調査　受託研究

⑺共同研究

●明治大学イノベーション研究所の研究プロジェクト「地域企業のイノベーション」に参加

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●ナショナリズム研究会に参加

細　矢　浩　志

⑴現在の研究テーマ

●EU統合進展下の欧州自動車産業の変容について

●企業・工場誘致と地域経済の振興・活性化に関する実証的研究

⑵著書・論文ほか

●「いま『クルマ』が面白い」『青森雇用・社会問題研究所NEWS LETTER No.26』2008年９月

⑶研究発表・講演

●講演「ロシア・中東欧自動車産業の現状と今後の展望」
日本工作機械工業会・第３回国際委員会，2008年７月25日：名古屋マリオネットアソシアホテル

●学会発表「欧州自動車産業の生産ネットワークの基本構造」
東北経済学会第62回大会，2008年９月13日：岩手大学

⑷学外集中講義

●山形大学人文学部「経済政策論（後期）」2007年12月

●山形大学人文学部「経済政策論（前期）」2008年９月

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●ベルギー（ブリュッセル），ドイツ（フランクフルト，ベルリン，ミュンヘン），チェコ（プラハ）：2008年３月５～18日

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●科研費　基盤研究（B）⑴
「ユーロ圏経済の分裂傾向とユーロの持続性に関する総合的研究」

●科研費　基盤研究（C）
「EUの東方拡大にともなう欧州自動車産業の生産分業再編に関する実証研究」

●平成20年度あおもり県民政策研究
「自動車工場誘致を通じた産業基盤の形成と地域経済の活性化に関する高次政策的考察」

⑺共同研究

●弘前大学人文学部ふるさと再生プロジェクトチーム「過疎地域･限界集落ふるさと再生支援事業および事業のための調査研究」

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●弘前大学経済学会・編集委員会

山　本　康　裕

⑴現在の研究テーマ

●金融システムとマクロ経済の関係性

⑵著書・論文ほか

●山本康裕（2008）「銀行貸出市場の寡占化と金融政策―静学モデルによる分析―」

『人文社会論叢　社会科学篇』第19号、pp.25-39.　2008年２月29日

⑶研究発表・講演

●山本康裕（2008）「銀行業の再編・統合と金融政策」
日本金融学会2008年度秋季大会　広島大学　2008年10月13日

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●数量経済研究会　2008年５月15日、６月26日、８月６日

福　田　進　治

⑴現在の研究テーマ

●リカードの経済理論

⑵著書・論文ほか

［論文］

●「古典派価値論の比較検討―スミス、リカード、マルクス、スラッファー―」『立命館経済学』第56巻第５・６号、176-196頁、2008年３月20日刊行

●「日本の初期リカード研究―スラッファ解釈批判と部門別利潤率規定論―」『人文社会論叢　社会科学編』第20号、41-62頁、2008年８月31日刊行

⑶研究発表・講演

［研究発表］

●「スラッファのリカード解釈―穀物比率理論を中心に―」、リカードウ科研費研究会、明治大学、2008年１月13日

●「アダム・スミスの国家論の射程―「小さな国家」論の再検討―」、第８回ナショナリズム研究会、弘前大学、2008年３月13日

●「日本のリカード研究と欧米のリカード研究―初期リカード解釈をめぐる論争―」第19回経済思想研究会、弘前学院大学、2008年４月27日

［討論］

●「ミリセント・ガレット・フォーセットの経済学―*Political Economy for Bignners* (1870)―」（報告者　舩木恵子）、第20回経済思想研究会、東北工業大学、2008年８月３日

●「Marx on Value: an (Anti) Ricardian Perspective ?」（報告者　Gilbert Faccarello）、第15回リカードウ研究会、明治大学、2008年９月27日

［公開講座］

●「経済思想の基礎知識―比較優位の原理と地域経済―」弘前大学生涯学習教育研究センター・つがる市教育委員会共催、つがる市生涯学習交流センター、2008年９月20日

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●科学研究費補助金　基盤研究（C）「日本のリカードウ研究史―比較史的視点を交えて―」（研究代表者　千賀重義）平成18～19年度

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●第29回経済学史学会東北部会例会、弘前大学、2008年４月26日

小谷田　文　彦

⑴現在の研究テーマ

●企業の研究開発投資，海外直接投資に関する実証研究

⑵著書・論文ほか

●論文「海外直接投資関数の推計」弘前大学人文学部『人文社会科学論叢（社会科学篇）』，19，41-50，2008年２月

⑶研究発表・講演

●研究発表「海外直接投資と国内投資の誘因の違いに関する実証分析」第51回（2008年度第１回）国際ビジネス研究学会（早稲田大学），2008年１月24日

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●海外出張　フィンランド共和国（2008年９月６日から９月17日）

●海外出張　スウェーデン王国，フィンランド共和国（2008年11月16日から11月27日）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●「地域政策の適切な評価方法と国際的な地域研究機関の連携に関する研究」学術国際振興基金

●「産学官連携による地方都市経済再生の研究」学術国際振興基金（森樹男氏と共同）

飯　島　裕　胤

⑴現在の研究テーマ

●企業買収，買収防衛策の経済分析

⑵著書・論文ほか

［論文］

● Hirotsugu Iijima and Takashi Ieda（飯島裕胤，家田崇）
"Asymmetric Information and the Desirable Rule on the Acquisition of Corporate Control." *Studies in Applied Economics*（応用経済学研究），1，pp.157-177，2008年５月発行　（査読有）
（昨年度本欄で，掲載許可を得た旨報告したもの．掲載ページ等詳細が判明したので追記して再度報告する）

⑶研究発表・講演

［学会報告］

●飯島裕胤「保身，チーム・インセンティブ問題，および株主圧力：買収防衛策導入の決定メカニズム」日本経済学会春季大会，2008年６月１日，東北大学

● Hirotsugu Iijima（飯島裕胤）
"Entrenchment, Team Incentives and Shareholder Pressure: Explanation of the Adoption or Abandonment of Takeover Defenses" The 4th Annual Meeting of the Asian Law and Economics Association, 27th-28th, September, 2008, Kyushu University, Japan（2008年９月27日，九州大学）

●飯島裕胤「買収防衛的な第三者割当増資と買収プレミアム」日本応用経済学会秋季大会，2008年11月23日，金沢大学

［学会賞］

●飯島裕胤，論文「ステークホルダーの利益保護に対する現経営陣と買収者の行動の差異」における「将来の研究発展の基礎をなす貢献」により，日本応用経済学会秋季大会（2008年11月23日，金沢大学）にて，日本応用経済学会奨励賞を得た

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●「成熟経済における望ましい企業買収のあり方について」学術国際振興基金，A-1 ①若手研究者への助成

李　　　永　俊

⑴現在の研究テーマ

●地域の若年雇用問題

●生活満足度の経済的な要因分析

⑵著書・論文ほか

●李永俊・石黒格（2008）『青森県で生きる若者たち』弘前大学出版会

●李永俊（2008）「青森県の現状と課題―2030年の青森県に向けての提言」『れぢおん青森』』青森地域社会研究所、Vol.30、No.359、２－11頁。

●李永俊・石黒格（2008）「仕事・生活とこころの健康に関する調査報告書」弘前大学人文学部附属雇用政策研究センター報告書、No.3。

⑶研究発表・講演

●「少子高齢化社会の現状とこれから」弘前大学生涯学習教育研究センター公開講座、2008年７月18日、於下北文化会館

●「青森県に生きる若者たちの姿」『青森県で生きる若者たち』第４回弘前大学人文学部附属雇用政策研究センターフォーラム、2008年10月17日、於弘前駅前市民ホール

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●学術国際振興基金「地方中高年層の就業状況と生活意識に関する調査研究」

●弘前大学学長指定重点研究「都市に暮らす地方出身の若者の就業状況と地元意識に関する調査研究」

⑺共同研究

●「地方中高年層の就業状況と生活意識に関する調査研究」人文学部附属雇用政策研究センター内共同研究

●「都市に暮らす地方出身の若者の就業状況と地元意識に関する調査研究」人文学部附属雇用政策研究センター内共同研究

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●『青森県で生きる若者たち』第４回弘前大学人文学部附属雇用政策研究センターフォーラム、2008年10月17日、於弘前駅前市民ホール

●『日本とスウェーデンの地域活性化・雇用政策を考える』第５回　雇用政策研究センターフォーラム、2008年10月27日、於弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

○公共政策講座

堀　内　健　志

⑴現在の研究テーマ

●Ｋ・ヘッセの憲法論

●憲法の基礎理論

⑵著書・論文ほか

［論文等］

●「公法上の『組織法』と『内部法』とを概念上区別する必要はないか―藤田宙靖著『行政組織法』にみる「公務員法」の位置づけ―」、『青森法政論叢』９号（青森法学会、2008年）、81-85頁

●「『憲法学』と『政策学』―研究者の任務は変化したのか？」『人文社会論叢（社会科学篇）』19号（弘前大学人文学部、2008年）109-116頁

●「書評・加藤隆之著『性表現規制の限界―「わいせつ」概念とその規制根拠』（ミネルヴァ書房、2008年）」『青森法政論叢』９号（青森法学会、2008年）86-90頁

●「『憲法』概念と憲法学（その二）―ドイツ憲法（学）史を背景とする『日本憲法学』」『人文社会論叢（社会科学篇）』20号（弘前大学人文学部、2008年）63-80頁

⑷学外集中講義

●弘前福祉短期大学（法学）

村　松　惠　二

⑴現在の研究テーマ

●ヨーロッパ極右の論理と心理、ナショナリズムとジンゴイズム

⑵著書・論文ほか

［その他（書評）］

●「信仰と研究と実践と―『宮田光雄思想史論集』に寄せて」、『青森法政論叢』91-96頁（2008年８月31日付）

山　下　祐　介

⑴現在の研究テーマ

●社会学（地域社会学・農村社会学・都市社会学・環境社会学・災害社会学・社会理論）

⑵著書・論文ほか

［著書］

●『津軽、近代化のダイナミズム』御茶の水書房、2008年２月（山下祐介・作道信介・杉山祐子編）.

［論文］

●「防災福祉コミュニティ」大屋根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編『シリーズ災害と社会１　災害社会学入門』弘文堂、212－222頁、2007年12月.

●「リスク社会におけるボランティア、公共性」大屋根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編『シリーズ災害と社会１　災害社会学入門』弘文堂、246－257頁、2007年12月.

●「北東北の農山村」、河西英通・脇野博編『北方社会史の視座　歴史・文化・生活　第３巻歴史分野（近代）と生活・生業分野』137-173頁、清文堂、2008年５月.

●「日本の近代化と地域社会」作道信介編『近代化のフィールドワーク』、東信堂、169-190頁、2008年５月.

［報告書］

●「鰺ヶ沢町過疎集落活性化モデル調査研究事業　平成19年度深谷・細ヶ平・黒森調査報告書」2008年３月、弘前大学人文学部社会学研究室、鰺ヶ沢町、深谷・細ヶ平・黒森町内会.

●『公開講座「岩木川～みず・ひと・しぜん」講演記録集特別編２これからの岩木川』、公開講座「岩木川～みず・ひと・しぜん」運営委員会、2008年３月.

●『〈平成19年度あおもり県民政策研究（一般）〉青森県内過疎地域の限界集落化の検証と政策課題―西南日本の過疎高齢化とは異なる我が県の現状を解読し、独自の政策課題を抽出する―』、2008年３月.

［その他］

●「目屋をめぐる菅江真澄と森山泰太郎」、『津軽学』第３号、134-151頁、津軽に学ぶ会、2007年12月.

●「津軽学公開講座　語り合い　場のちから地の記憶、『津軽学』第３号、33-64頁、津軽に学ぶ会、2007年12月.

●「フィールド探訪　船沢編」（弘前大学社会学研究室）、『津軽学』第３号、152-155頁、津軽に学ぶ会、2007年12月.

⑶研究発表・講演

●「青森県内過疎地域の限界集落可の検証と政策課題」、あおもり県民政策ネットワーク研究発表会、青森国際ホテル、2008年２月16日.

●「本県における限界集落問題の現状と課題」青森県過疎対策研究会第２回、青森県庁西棟７階Ａ会議室、2008年３月28日.

●「地域のリスクと資源―防災・福祉・環境コミュニティをめぐって」、西日本社会学会、第66回大会シンポジウム「リスクとソーシャルキャピタル」、活水女子大学、2008年５月11日.

●「社会科地域教材開発講座　地域のよさを発見する社会科指導　地域実地調査に向けて―田舎館村枝川三堰地域を素材に」2008年９月24日～25日、青森県総合学習教育センター.

●「津軽、近代化のダイナミズム」、公開講座　津軽学「ジャワメク磁場「津軽」その深層」2008年10月13日、弘前大学人文学部・津軽に学ぶ会.

●「リスク社会とボランティア・市民活動」日本社会学会第81回大会、東北大学、2008年11月23日.

⑺学外との共同研究

●公開講座「岩木川～みず・ひと・しぜん」運営委員会事務局

●平川マイバスの会理事（「平川バス・ひと・まち懇談会」を通じた地域公共交通に関する研究：国際交通安全学会との共同）

●青森県パートナーシップ推進委員会員

●津軽ダム広報室運営委員会員・砂川学習館運営委員会委員

●鰺ヶ沢町マッチングファンド運営に関する共同研究（鰺ヶ沢町、NPO法人・グリーンエネルギー青森）

●その他

⑻学会活動

●日本都市社会学会（企画委員）

児　山　正　史

⑴現在の研究テーマ

●地方自治体の行政評価・政策評価と総合計画

⑵著書・論文ほか

［論文］

●「愛知県東海市のまちづくり指標（～2007年９月）―自治体行政における社会指標型ベンチマーキングの活用―」、『人文社会論叢（社会科学篇）』、第19号、pp.51-76

⑶研究発表・講演

［研究発表］

●「行政学からみた『準市場』としての教育」、グローバル化・ポスト産業化社会における教育社会学の理論的基盤の再構築に関する研究会、2007年12月９日、東京大学

紺　屋　博　昭

⑴現在の研究テーマ

●労働法の〈三角関係〉

●しっぱい労働法、あるいは労働法の小規模な失敗について

●業務命令権の構造および契約論的解釈

●個別労使紛争解決制度の多様化と機能分化

●地域雇用の法政策的分析と他学問領域との相関

●諸外国の若年者に対する総合支援の比較分析

●研究室がなくなって切れた研究のツテをどうにか取り戻そうとする実践

●40歳になってやらなければならないことインタビュー

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 紺屋博昭「雇用対策法の意義と問題点―若年者の就業促進および雇用機会の確保と募集採用時の年齢制限―」『日本労働法学会誌』第111号（2008年）pp.130-139

［講演録］

- 紺屋博昭「労働紛争処理の今日的課題」『月刊労委労協』第628号（2008年）pp.45-64

［読書ノート］

- 紺屋博昭「読書ノート：村田毅之『日本における労使紛争処理制度の現状』」『日本労働研究雑誌』第581号（2008年）pp.97-98

［紀要論文］

- 紺屋博昭「雇用を創る計画を作る―改正地域雇用開発促進法と地方自治体の雇用創出プログラム形成過程の問題点―」『人文社会論叢（社会科学篇）』第20号（弘前大学人文学部、2008年）pp.103-120

⑶研究発表・講演

［講演］

- 「労働条件の変更と企業再編・リストラ策―知っておきたい『労働契約の中途変更』、そして『人員整理』のルール―」（平成19年度 社団法人青森県経営者協会 人事・労務担当者研修会「ベーシック労働法講座」第３回）2007年12月７日
- 「解雇の最新裁判例を知る―解雇権濫用法理の展開―」（厚生労働省青森労働局「総合労働相談員研修」）2007年12月12日
- 「懲戒処分と解雇・退職―ケーサツまかせ？それとも社内処分？不祥事への対処を考える―」（平成19年度 社団法人青森県経営者協会 人事・労務担当者研修会「アドバンスト労働法講座」第５回）2007年12月14日
- 「個別労使紛争、集団的労使関係―職場トラブルの解決のための労働法、こう使われる！―」平成19年度 社団法人青森県経営者協会八戸支部 人事・労務担当者研修会「ベーシック労働法講座」第４回）2008年１月18日
- 「生産現場の若い従業員の処遇プランについて」（青森県工業会キラリ燦く職場作り研究会2007第３回）2008年２月14日
- 「安全衛生と労働災害―えっ！上司の言動が労災の原因に？―」（平成19年度 社団法人青森県経営者協会 人事・労務担当者研修会「アドバンスト労働法講座」第６回）2008年２月15日
- 「組合活動と団交・労働協約の締結―なくならない不当労働行為！労働組合とつきあうルール、知ってる？―」（平成19年度 社団法人青森県経営者協会　人事・労務担当者研修会「アドバンスト労働法講座」第７回）2008年３月14日
- 「労働条件の変更と企業再編・リストラ策―従業員の個別処遇のルールをつくろう！―」（平成19年度 社団法人青森県経営者協会 人事・労務担当者研修会「アドバンスト労働法講座」最終回）2008年４月18日
- 「労働紛争処理の今日的課題―契約の理解、感情の処理、当事者の満足、そして紛争処理技術支援を考える―」（平成20年度北海道・東北ブロック労働委員会労働者側委員連絡協議会研究会）2008年６月10日
- 「産業と組織の心理学―組織と人間関係、その基本的な仕組みを理解する―」（社団法人日本産業カウンセラー協会 平成20年度産業カウンセラー養成講座 盛岡教室）2008年８月24日
- 「労働経済―組織における従業員の働かせ方とその問題を理解する―」（社団法人日本産業カウンセラー協会 平成20年度産業カウンセラー養成講座 盛岡教室）2008年９月７日
- 「就業規則による契約管理と雇用の基準化」（平成20年度 社団法人青森県経営者協会八戸支部 人事・労務担当者研修会「アドバンスト労働法講座」第１回）2008年９月12日
- 「採用から戦力へ―内定、試用、教育訓練と戦力化のステージ―」（平成20年度 社団法人青森県経営者協会人事労務問題研修会「エクセレント雇用管理講座」第１回）2008年９月19日
- 「成果と賃金―差別化と均等待遇のバランス―」（平成20年度 社団法人青森県経営者協会八戸支部 人事・労務担当者研修会「アドバンスト労働法講座」第２回）2008年10月３日
- 「10年目の転機―キャリア、配転、管理職養成のステージ―」（平成20年度 社団法人青森県経営者協会人事労務問題研修会「エクセレント雇用管理講座」第２回）2008年10月10日
- 「日本の社会保障制度の現状と問題点」（平成20年度むつ市教育委員会「生涯学習連続講演会」第３回）2008年10月17日
- 「高年齢者の多様な働き方を考える―職業経験の活用と働き続けるための条件―」（社団法人岩手県雇用開発協会「平成20年度高年齢者雇用管理研修」（奥州市文化会館））2008年11月20日

［研究発表］

- 書評「石川良子　『ひきこもりの〈ゴール〉「就労」でも「対人関係」でもなく』を読む」（青少年研究会）2008年４月19日（於上智大学）

⑷学外集中講義

- 青森公立大平成20年度秋学期「労働法」

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●イギリス　2008年２月15日－2008年２月21日、ロンドン市内 若年者総合支援組織「コネクションズ」等を訪問調査

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

［研究代表者となるもののみ記載］

●紺屋博昭「就業支援行政におけるワンストップサービスの展開と法政策的課題」（H18-H20 文部科学省科学研究費補助金 若手研究（A）課題番号18683001）

山　口　恵　子

⑴現在の研究テーマ

●都市の貧困に関する社会学的研究

●中心─周縁における就業構造の変容に関する実証研究

●弘前研究

⑵著書・論文ほか

［論文］

●山口恵子、2008年２月、「地方都市におけるファミリーコースの変遷と都市空間の再編・変容─津軽地域／弘前市を事例に─」山下祐介・作道信介・杉山祐子編著『津軽、近代化のダイナミズム─社会学・社会心理学・人類学からの接近─』御茶の水書房（山下祐介と共著）、225-331頁

●山口恵子、2008年２月、「リーダー生成過程としての選挙と地域づくりの展開─津軽選挙研究─」山下祐介・作道信介・杉山祐子編著『津軽、近代化のダイナミズム─社会学・社会心理学・人類学からの接近─』御茶の水書房（山下祐介・蒔苗伸郎と共著）、379-421頁

●山口恵子、2008年５月、「都市と路上で生きる人々」作道信介編『近代化のフィールドワーク─断片化する世界で等身大に生きる─』東信堂、123-142頁

●山口恵子、2008年10月、「ホームレス化する若者？」羽渕一代編著『どこか〈問題化〉される若者たち』恒星社厚生閣、45-61頁

● Yamaguchi, Keiko. 2008. “The Spatial Spread of Poverty in the Megalopolis and the State of Segregation, 1975-2000.” pp.136-156 in Poverty and Social Welfare in Japan, edited by Masami Iwata and Akihiko Nishizawa. Melbourne: Trans Pacific Press.

［その他］

●山口恵子、2008年11月、「地方労働市場の変化と地域移動─若者のホームレス化の背景─」社会理論・動態研究所『理論と動態』１、145-159頁

●山口恵子、2008年２月、書評：笹沼弘志『ホームレスと自立／排除』、『図書新聞』2879、２頁

●弘前大学人文学部・社会行動コース編集・発行、2008年４月、『弘前市におけるタクシー産業の展開』（社会調査実習・仕事班報告書）

⑶研究発表・講演

● Keiko Yamaguchi and Ichiyo Habuchi, Youth and Homelessness in Japan, September 7, 2008, 1st ISA Forum of Sociology, Barcelona.

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●イギリス（2008年２月15日～２月21日）

●スペイン・イギリス（2008年９月２日～９月18日）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●科学研究費補助金「建設産業における若年不安定就業層の実態に関する社会学的研究」（研究代表）

●弘前大学学長指定緊急重点研究「都市に暮らす地方出身の若者の就業状況と地元意識に関する調査研究」（研究分担）

●弘前大学若手萌芽研究「青森出身女性の地域移動と仕事に関する社会学的研究」（研究代表）

⑺共同研究

●「移動研究会」弘前大学人文学部内教官

●「若者の就労と移動」弘前大学人文学部内教官

⑻学会・研究会等

●第23回解放社会学会大会テーマ部会Ⅱ「自立支援法以降の野宿者問題」、部会ならびに特集論文のコーディネート

平 野　　潔

⑴現在の研究テーマ

●過失犯における注意義務概念

●刑法における情報の保護

⑶研究発表・講演

●「シンポジウム：法科大学院進学の現状―青森県における法曹養成のあり方を考える―」（司会兼パネリスト）（2008年３月８日、於：弘前大学人文学部校舎４階多目的ホール）

●「最高裁第二小法廷決定 平成19年３月26日『業務上過失傷害罪被告事件』」（2008年度第１回東北大学刑事法判例研究会報告）（2008年７月19日、於：東北大学文科系総合研究棟１号館11階大会議室）

●「刑法改正と刑罰の本質」ＦＭアップルウェーブりんご王国こうぎょくカレッジ（ゼミ生（髙田毅、齋地美菜子、鳥谷部知子）とともに出演、2008年８月10日放送、８月17日再放送）

⑷学外集中講義

●青森中央学院大学「刑事法」夏季集中講義

飯　　考 行

⑴現在の研究テーマ

●東北地方の法律サービス提供構造に見る司法改革の影響

●裁判および裁判官に対する民主的統制

●大都市以外における弁護士の業務スタイル

●司法書士職の動向と裁判関連業務への取組み

●諸外国の司法制度とその機能

⑵著書・論文ほか

［論文］

●飯考行「司法制度改革における『国民の視点』」法と民主主義425号（2008年１月）64-69頁

●飯考行「北東北の司法書士に見る簡裁代理権行使要因」秋田県司法書士会会報・司法書士報あきた68号（2008年３月）3-5頁

●飯考行「ベトナム：ミニ・シンポジウム『現存（旧）社会主義国における『裁判統制制度』の改革についての比較検討』」比較法研究69号（2008年５月）181-188頁

●飯考行「アメリカの単独開業弁護士と中小規模法律事務所の現状」自由と正義59巻８号（2008年８月）60-66頁

［学界回顧］

●飯考行「司法問題」法律時報80巻13号（2008年11月）329-344頁

［その他］

●飯考行編集『弘前周辺の司法関係職と機関―2007年度裁判法ゼミナール調査報告書―』（2008年３月）

⑶研究発表・講演

［研究発表］

●飯考行「弁護士過疎地の市民事件における依頼者・弁護士関係の実態と弁護士倫理」日本法社会学会2008年度学術大会（2008年５月10日）

●Takayuki Ii, Regional Lawyers in the Current of Reform: Why are There Few Lawyers in Rural Northeast Japan?, Law and Society Association, 2008 Annual Meeting in Montreal, Canada（2008年５月29日）

●Kay-Wah Chan and Takayuki Ii, Japanese Judicial Scriveners in Identity Crisis?, Law and Society Association, 2008 Annual Meeting in Montreal, Canada（2008年５月29日）

●飯考行「少年司法に関する大学教育と学生の見方」日本司法福祉学会第９回大会（2008年８月３日）

●飯考行「実務法律家の訴訟方針と判決への影響―光市事件裁判の事例―」青森法学会第11回研究大会（2008年９月23日）

［講演］

●飯考行「メリットセレクションの視点からみた最高裁裁判官選任制度のあり方」日本弁護士連合会裁判官制度改革・地域司法計画推進本部「最高裁判所裁判官選任制度のあり方に関する勉強会」（2008年１月28日）

●飯考行「市民の司法参加について」青森家庭少年友の会総会（2008年３月25日）
●飯考行「裁判員制度について理解を深めよう」三沢市公会堂（2008年10月22日）

〔シンポジスト〕

●市民公開シンポジウム2008「裁判員制度と死刑―あなたは死刑を宣告できますか？―」アムネスティ・インターナショナル日本・弘前グループ（2008年10月４日）

⑷学外集中講義

●青森県立黒石高等学校専攻科看護科「社会保障制度と生活者の健康（関係法規）」（2007年10－12月）

⑸海外出張・研修、そのほかの海外での活動

●Law and Society Association, 2008 Annual Meeting in Montreal, Canada（カナダ･モントリオールにて開催の法と社会学会年次大会参加・報告、2008年５月29日－６月１日）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●平成19-21年度科学研究費補助金若手研究（B）「東北地方の法律サービス提供構造に見る司法改革の影響と『法化』状況」（研究代表）
●平成19-20年度科学研究費補助金萌芽研究「非行少年の自立支援『学生ボランティア』にみる司法・教育・福祉の連携」（研究分担）

⑺共同研究

●弁護士社会構造研究会「弁護士プロフェッションの社会構造に関する実証研究」メンバー

⑻弘前大学人文学部主催の学会・研究会等

●伊藤佑輔弁護士講演会（2007年12月６日）（企画）
●シンポジウム「法科大学院進学の現状―青森県における法曹養成のあり方を考える―」（2008年３月８日）（企画）
●山鹿高紀司法書士講演会（2008年６月24日）（企画）
●若松孝之保護観察官講演会（2008年10月28日）（企画）
●熊坂義裕宮古市長講演会（2008年10月29日）（企画）

長谷河　亜希子

⑴現在の研究テーマ

●経済法、独占禁止法、フランチャイズ・システム

⑵著書・論文ほか

●「事業者の意義」、「取引条件等の差別的取扱い」土田和博・岡田外司博編『演習ノート経済法』法学書院（2008年３月）11-12頁、81-83頁。
●「東京地方裁判所平成18年（ワ）第24341号損害賠償請求本訴事件、東京地方裁判所平成19年（ワ）第19360号損害賠償請求反訴事件に関する意見書」（2008年８月）

⑶研究発表・講演

●「新潟市のタクシー事業者による共同の取引拒絶（平成19年６月25日排除措置命令）について」（於：公正取引委員会「審判判例研究会」2008年９月９日）
●「フランチャイズ本部と加盟店の利益配分をめぐる問題―加盟店のgoodwillへの着目」（於：民主主義科学者協会法律部会2008年度学術総会ミニ･シンポ『フランチャイズをめぐる諸問題』2008年11月15日）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

●文部科学省科学研究費（若手研究B）「日米におけるフランチャイズ契約規制の現状と課題」（課題番号20730037）

日　野　辰　哉

⑴現在の研究テーマ

●行政訴訟における集合的利益の法的構成
●20世紀初頭における仏独公法学の交錯
●公的規制と契約の関連とその法構造
●フランス行政法における契約論の展開
●科学技術の発展に伴うリスクの発生と行政による制御

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 日野辰哉「情報化社会における市民のプライバシー保護　～労働者の私用メールに対する監視と不法行為責任を中心に～」人文社会論叢（社会科学篇）第19号 pp.77-90（2008年２月）
- 日野辰哉「競業者による新規パチンコ店出店を妨害した既存パチンコ事業者の一連の行為について不法行為責任が認められた事例」法學第72巻第１号 pp.159-168（2008年５月）

⑶研究発表・講演

［講演］

- 放送大学面接授業「市民社会の支えとしての行政と法」（８月）
- 青森県立青森高校・出張講義（11月）

［研究発表］

- 「一般公共海岸区域における占用許可処分に含まれる裁量権の行使とその統制」第22回早稲田行政法研究会（2008年10月）
- 「最２小判平成19年12月７日民集61巻９号3290頁」行政判例研究会（2008年11月）

福　田　健太郎

⑴現在の研究テーマ

- 人権条約と民法
- 私人間における基本権保護のあり方

⑵著書・論文ほか

［論文］

- 「法律行為による基本権制約の限界」人文社会論叢社会科学篇19号91-108頁（2008年２月）
- 「学校事故と学校設置者の責任―いじめ事案から見た法理論の現状と課題―」人文社会論叢社会科学篇20号81-101頁（2008年８月）
- 「請負瑕疵担保責任の権利消滅期間の起算点」青森法政論叢９号1-18頁（2008年８月）

⑹科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 文部科学省科学研究費補助金〔若手研究（B）〕「人権条約を通じた私法規範の形成」